

歴代会長

初代 藤野 隆助 (昭和27年～昭和53年)
 二代 海老沢 勉 (昭和53年～昭和57年)
 三代 清水 吉衛門 (昭和57年～平成4年)
 四代 中根 秀明 (平成4年～平成5年)

五代 石川 久任朗 (平成5年～平成16年)
 六代 鈴木 久雄 (平成16年～平成19年)
 七代 木口 弘 (平成19年～平成27年)
 八代 関 正行 (平成27年～)

組織

* 町会長、副会長5名（総務部長、防災部長、防犯部長、交通部長、婦人部長）、書記
 会長2名、防火部、広報部、地区委員・協力委員、祭礼委員、民生委員3名、子供とともに進む会

まちの由来

町会の南側を流れる神田川は、その昔ホタルの群生地であった。夏ともなるとあたり一面乱舞していて、それを若者たちが皇居のお濠や二重橋まで持って行き、放していた。ホタルの思い出から千代田城にちなんで「千代田町」と名付けたと伝聞されている。

昭和7年10月に中野区が誕生したと同時に区内60カ所の町と共に千代田町も設置され、同時に千代田町会も発足した。戦後、昭和22年5月、政令により町会は解散したが、昭和27年4月に町会の復活が認められると同年10月には千代田町会の活動を再開した。その後、昭和42年に新住居表示の施行により町名は「本町五丁目」となったが、町会員の総意により伝統ある「千代田町会」を継続することとした。

千代田町の特徴

当町会は、東京メトロの「新中野」「中野新橋」「中野富士見町」の三つの駅にまたがる便利さによりマンションが増加している典型的な住宅街で、企業や商店は極めて少ない。町の中心には区立第二中学校があり、その第二校庭では町民のふれあいの場として各種行事が行われている。また平成28年3月には旧NTT社宅跡地の広大な広場が草地広場と多目的運動広場に整備され、名称も新たに「本五ふれあい公園」として幼児から高齢者まで集えるふれあいの場となった。

町会を流れる神田川は、台風や集中豪雨による河川氾濫の被害に悩まされてきたが、中野新橋下流の拡張、環七地下調整池の完成などの治水対策により、氾濫はほぼ消滅した。

町会の主な活動

会員相互の親睦を図り、「みんなで築こう住みよい町を、楽しい町を」を標題にして、安心安全な街にするために防犯パトロール、交通安全運動、町内一斉清掃、防災機器の点検・整備、街頭消火器点検、避難所訓練などの行事や、町会員の親睦を目的としたお花見会、納涼会、餅つき大会、バス旅行、敬老祝品贈呈、グラウンドゴルフ大会、ラジオ体操など、沢山の行事を行っている。

これからの課題

町会役員の高齢化が進んでいるが、役員のみならず世代交代が進まない。子供と共に進む会の父母を中心に次世代リーダーの育成が急務である。



千代田町会餅つき大会